

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 4年 3月 16日

公表: 令和 4年 3月 28日

事業所名 児童発達支援事業所 くくる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用者ごとに配置を工夫し、安全に活動できるよう設定しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		利用人数に応じて、職員の配置をしております。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		絵カードや文字にてわかりやすく伝える工夫がなされており、安全に過ごせる様な環境になっています。	今後も保護者様からの意見を取り入れた環境設定を行って参ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		終了後速やかに清掃と消毒を行っています。 玩具の消毒も定期的に行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		カンファレンスを定期的を実施したり、終了後反省会を行っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者から頂いたアンケート結果をHP上に公表しています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	○		感染症対策の観点から外部評価を行っていないが、今後実施したいと考えております。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修等に参加しています。	コロナ禍が落ち着いた時は、さらに積極的に研修等参加していきたいと考えております。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		定期的にあセスメントと事業所内相談を行い、個別支援計画を作成しています。	より良い支援計画作成の為に、職員間でこまめに情報共有を行い反映させていきたいと考えております。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			子ども達の特徴や特性に合った支援計画の作成に努めています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			日々反省会を実施し、その内容を反映させています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		コメディカルからの意見を取り入れ、作業面や言語面など多角視点で活動プログラムを設定しています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々の反省会に加え月末に職員で意見を出し合い、内容に偏りが出ない様に考えています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		打ち合わせの時間を必ず設定し、当日利用する児童や支援内容について確認しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日あった事や共有事項を日誌や日案に記載し、職員全員が把握できるよう努めています。	日案に記載し、その場に居なかった職員も後から必ず確認出来るように努めています。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		全職員でカンファレンスを行い、より良い支援計画作成に努めています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保健センターと連携を取り支援を行っています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	該当するお子様は通所していません。	現在該当するお子様は通所していないが、今後必要があれば様々な機関との連携を図って行きたいと考えております。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	該当するお子様は通所していません。	現在該当するお子様は通所していないが、今後必要があれば様々な機関との連携を図って行きたいと考えております。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		関係機関連携会議や園長会に参加し、地域との連携を図っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		岡崎子ども発達センタなどへ見学へ行き、スタッフへも共有しています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍により交流は控えているが、状況が落ち着いたら実施したいと考えております。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会の下部組織の子ども部会に参加しております。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		3才未満児の保護者に対して、グループワークを実施しています。	保育園児は多人数になってしまうので、コロナ禍においては実施できていないのが現状です。状況が落ち着いたら検討し、実施したいと考えています。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に必ず詳細をお伝えしている。質問等ある場合は都度対応しています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍において十分な機会を確保出来ていないが、状況が落ち着いたら企画・開催したいと考え手おります。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		職員間で連携し、相談できる体制を整えています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍により交流は控えているが、状況が落ち着いたら実施したいと考えております。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			各種の訓練は実施しているが、保護者への周知が確実ではない。今後はお知らせにて実施内容をご案内したいと考えております。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			各種の訓練は実施しているが、保護者への周知が確実ではない。今後はお知らせにて実施内容をご案内したいと考えております。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に保護者に確認を取っている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		アレルギー対応を原則行っており、見学時や契約時に保護者にご了承頂いております。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			身体拘束を実施した経験はありませんが、身体拘束における指針を作成しております。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。